

●地図編集室だより

平成23年度用地図帳

こだわりをもった 地図づくり

色そのものの美しさの追究

地図の「美しさ」は「正確性」「新しさ」と同じくらい重要な要素です。「美しさ」に大きな影響を与えているのが着色です。着色が濃すぎると目がチカチカしたり、地名などの文字が読みづらくなったりします。反対に、着色が薄すぎると、色があせたような印象になってしまいます。試行錯誤をしながら、納得のいく色になるまで色の濃さを1%刻みで調整します。

着色の中でもとくにこだわりをもっているのが平野や水田などに用いている緑色です。一般の印刷物では、黄色と青色の濃度調整で好みの緑色をつくりだしています。しかし、一般のインキの配合で表現できる色には限界があります。そこで、帝国書院の地図では特製の緑色のインキを用いることによって、さわやかな平野、緑豊かな水田のイメージを出しています。

美しく立体的に見える山地の表現の追究

平らな紙の上で山地を立体的に見せるため、レリーフとよばれる陰影を入れています。レリーフは地図の左上から右下に向かって光があたるイメージで、製図職人が描き起こしています。近年はコンピュータソフトの発達により、自動的にレリーフを作成することも可能になりました。しかし、柔らかな質感、形の美しさといった点で、手づくりのレリーフに軍配が上がります。このレリーフの効果によって、等高線を読みとれない児童でも、直感的に土地の高低を読みとることができるようにしています。

美しい文字の書体・色・配置の追究

地図にはたくさんの地名を掲載しているため、

紙面に占める文字の割合は意外と大きいのです。そのため、地図を美しく仕上げるうえで、文字の書体や色を使い分け、適切に配置していくことはたいへん重要です。

たとえば、都道府県名・市町村名などにはゴシック体、河川名・海洋名・半島名などには明朝体、山頂名や鉄道・高速道路名などには丸ゴシック体を用いています。このようにさまざまな書体の文字を織り交ぜることにより、地名が混ざり合うことなく、読みやすくなるようにしています。また、地名の中でもとくに重要な都道府県名には赤色、水に関連する河川・湖・海洋名などには水色を用いるなど、地名の重要度や実際のイメージも加味して着色しています。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』p.28①近畿地方

編集上、とくに難しいのが文字の配置です。まず、市町村名などの地点を表す地名は、できるだけ文字と文字の間を詰めて記載し、近くの地名が重ならないようにしています。そして、道路・鉄道・河川などの線要素ともできるだけ重ならないように配置しています。しかし、都市部の地図では、鉄道や道路が密であったり、市町村などの記載事項が多かったりするために、どうしても線要素と文字が重なってしまう場合があります。その場合は、線の色を約半分の濃度に下げ、線要素を指でたどれるようにしながら、文字も読みやすくしています。

こうした工夫は1か所ずつ判断し、手作業で進める以外に方法がありません。これからも美しさにこだわった地図づくりに取り組んでまいります。
(帝国書院編集部)